



次代の産地や農村社会のリーダーとなりうる人材へ。



新設された次世代園芸育苗施設（令和2(2020)年3月完成）

01

ついに、次世代の園芸育苗施設が完成！

「園芸大国とちぎづくり」の一翼を担う意欲ある人材の育成を図るため、最先端の園芸育苗施設をはじめ、機械化一貫体系による露地野菜の生産を実践的に学ぶことができる教育環境を整備しています。

花き・野菜苗の育成については、複合環境制御システムや人工光・閉鎖型苗生産装置（苗テラス）等の導入により、品質の高い苗を安定して生産することが可能となりました。

また、露地野菜（たまねぎ・ねぎ）では、育苗からほ場管理、収穫・調整に至るまで省力化機械を利用し、大規模生産に対応した取組が可能となりました。

02

日本初！！「いちご学科」開設！

令和3(2021)年4月、全国初の「いちご学科」を開設します。生産量全国1位を誇る栃木のいちご栽培を担う経営者を育成することが目的で、優れた技術と高い経営能力を持ち、地域のリーダーとなりうる人材の育成を目指します。

在学期間は2年間で、とちぎ農業マイスターの元での実践研修、栽培に関わる技術や知識の習得の他、企業的な視点から農業経営を実践するため、経営管理能力の習得に向けた講義演習も行います。その他、課題について議論するゼミなど密度の濃い授業を実施します。募集人数は「少数精鋭」の10人で、県内外から幅広く人材を募り、年齢に上限は設けません。いちご王国を引っ張る「経営者になる」そんな意欲のある「あなた」をお待ちしています。



Message

農業大学校の目指すもの

栃木県農業大学校は、本県農業を支える農業経営者を育成することを目的としています。

本校は創立115年の歴史と伝統を有し、その卒業生は現在の本県農業を牽引する優秀な農業経営者として県内各地で活躍しています。

現在、農大では次世代の担い手を育成するための教育に力を入れています。来年からは、いちご学科の創設に併せて学部学科再編を行い、新たな一歩を踏み出します。また、スマート農業やGAP教育については、これまで以上に力を注いでいきます。ドローンを使った実習をはじめ、水田の自動給水栓やFOASといった省力化のための機械設備、トマト高軒高ハウスや苗テラスといった環境制御型ハウス、畜産部門では遠隔監視可能な飼養管理機器を備えた「ドリーム牛舎」など、生産現場で導入されつつある最新の設備機械を使って、スマート農業を学ぶことができます。

あなたも、ぜひ、栃木県農業大学校で夢のある農業を学び、稼げる農業の実現をめざしてみませんか。



栃木県農業大学校
校長

木田 勉

農業経営学科



農業の礎である土地利用型農業の生産技術の習得を目指します。

水稻・畑作・露地野菜に関する最新技術について学んでいます。

Pick Up!

水稻・畑作

露地野菜

学生は水稻、畑作、露地野菜の3つの専攻に分かれて学習します。水稻専攻では「とちぎの星」等の良食味品種を用い密播栽培、鉄コーティング直播など省力化技術に、畑作専攻では健康食材で話題の「もち麦」の食物繊維（大麦β-グルカン）を向上させる栽培法などに取り組んでいます。

また、露地野菜専攻では機械化一貫体系の下、たまねぎの効果的な乾燥方法や、長ねぎの品種比較、作期分散などについて検討しています。



一人一人の学生が担当するほ場（田畑）を持ち、実習を通じて生産から出荷まで、目標をもって学んでいます。



ねぎの機械化一貫体系による栽培を学んでいます。一人一人が実際に機械を使って土寄せ作業等を体験しました。

voice

先輩たちの声

在校生



農業経営学科 2年
竹村 真琴さん

「農業を深く学べる！」

私が所属する農業経営学科では、水稻・畑作・露地野菜の基礎技術だけでなく、水田センサーなどの ICT 技術を活用した水稻栽培、機械化一貫体系を導入した露地野菜栽培を実践的に学んでいます。

私が専攻する畑作では、携帯型 NDVI 値センサーによる「もち麦」などの追肥要否を判断する試験を行っています。一人一人が卒業論文の研究を通してより深く農業について学んでいます。

学生生活ではサークル活動の他に愛好会を設立し、収穫した作物で食品の加工についても研究しています。



卒業論文



農業経営学科 2年
新津 依麻さん

「冬どり長ねぎ品種の食味比較」

栃木県では水田転換畑を利用した長ねぎの作付けが増加傾向にあります。そこで、消費者に好まれる冬どり栽培に適した長ねぎ品種を選定するため、4品種を用いて特に食味について比較検討を行っています。

長ねぎの食味と関係があると思われる食感や糖度などを機器で測定するとともに、実際に食べてみての官能評価と比較しています。この結果を踏まえ、外観品質や収量性にも優れ、食味も優れた品種選定を行い、おいしいねぎ生産を目指したいと思います。



園芸経営学科 野菜専攻

施設野菜に関する基礎知識や最先端の技術習得を目指します。

いちご・トマトに特化した施設野菜に関する最新技術を学んでいます。

Pick Up!

いちご

トマト

本県主要品目であるいちご・トマト等の施設野菜について、40名の学生が実習と講義を通して栽培や経営技術を学んでいます。

いちごは「とちおとめ」や「スカイベリー」を、土耕栽培のほか高設の養液装置で栽培し、トマトではロックワールの養液栽培や、ハウス内の温度・湿度・炭酸ガス濃度などを遠隔で制御できる、最新の環境制御装置を備えた高軒高ハウスで栽培しており、現場に即したノウハウを学んでいます。



12月からは、収穫・出荷の時期を迎えています。学生達が自身で管理・収穫したいちごの味は格別です。



今年はトマトの定植時期が遅れましたが、その遅れを取り戻す位の勢いで学生達は栽培管理に取り組んでいます。

先輩たちの声

voice

在校生



園芸経営学科 1年
柴山流星 さん

「おいしいと言ってもらえるいちごを！」

私は、野菜専攻でいちごを専門に学んでいます。4月から6月まで、親株を管理し、7月に親株からランナーを切り離し、セルトレイに植えました。定植の日まで当番を決めて、毎日かん水し、乾燥しないようにし、9月にはほ場の準備をして、定植しました。葉かきなどをしながら、少しずつ収穫できたいちごをパック詰めの練習をし、出荷までの一連の管理を学んでいます。今以上にいちごの管理を徹底し、食べてくれた人がおいしいと言ってもらえるように努力したいと思います。



卒業論文



園芸経営学科 2年
加藤颯人さん

「反射材によるいちごの品質向上」

私は卒業論文で、「反射材の活用によるいちごの生育・収量・品質に及ぼす影響」という課題で試験を行っています。果樹栽培では果実の色づきをよくするため、反射材を用いることが多いのですが、通常のいちご栽培では、冬季の地温確保のため黒マルチを使用しており、反射材は夏場の虫害対策や地温抑制で使用される程度です。そこで、地温ポイラーが設置されている高設栽培では、反射材を用いても地温低下の影響を受けずに、果実の色まわりや品質を向上できないかと考え課題を設定しました。通常の調査に加え、様々な箇所の温度を測定するなど調査は少し大変ですが、良い結果を期待して取り組んでいます。

園芸経営学科 花き専攻



切り花や鉢花などの花き生産の技術習得を目指します。

さまざまな花きに関する最新技術を学んでいます。

Pick up!

切り花

鉢花

スプレーギク・カーネーション・ゆりなどの切り花、シクラメン・ハイドランジア・パンジーなどの鉢物・苗物について、8名の学生が講義と実習を通して栽培技術や経営管理を学んでいます。

切り花では、播種や挿し芽から出荷までの管理、鉢物では播種から用土作り、鉢上げやかん水など一連の管理作業を学んでいます。また、校外学習として花き市場や花き農家等への視察を行っています。



年間を通して様々な種類の切り花を栽培しています。カーネーションの芽かき作業や、ゆりなどの切り花の定植作業や出荷調整など色々な作業を経験できます。



播種から鉢上げや葉組みなどの作業や液肥管理を行い、12月には地域限定の即売会を開催し、販売体験を行いました。

voice

先輩たちの声

在校生



園芸経営学科 1年
鈴木 結子さん

「花の栽培管理が分かってきた」

私は、実家で花や野菜の手入れなどをしていて、花きの栽培に興味をもっていたので、農大の花き専攻に入学しました。講義や実習で花き栽培を専門的に学び、今まで知らなかった知識や技術が身につくにつれ、花きの栽培管理が少しずつわかってきました。

卒業論文ではシクラメンを取り上げることにしました。現在、播種したシクラメンの本葉が見えてきたところで、課題について、シクラメンの勉強をしながら検討しています。



卒業論文

「リン酸肥料のアジサイ花色発現への影響」



園芸経営学科 2年
小倉 綾華さん

私は卒業論文で、「ハイドランジアのリン酸肥料の違いによる花色発現への影響について」という課題で試験を行いました。ハイドランジアのピンク色は品種により発色が安定しにくいので、安定したピンク色を発色させるために、リン酸肥料の種類を変えて発色および品質について試験を行いました。品種はきらきら星とピーチ姫を供試し、リン酸肥料はようりんと苦土重焼燐を施用しました。両品種ともに、苦土重焼燐を施用した区の花色がよく簡易栄養診断でも、土壌中にリン酸量が多かったという結果になりました。



園芸経営学科 果樹専攻

果樹の基礎知識や先端技術を習得した、「即戦力」の担い手を目指します。

根圏制御栽培や GLOBALG.A.P. など果樹に関する最新技術も学んでいます。

県の主要品目であるなし・ぶどうをはじめ、りんご・くり・キウイフルーツ・かき・ブルーベリーなどの果樹について、時期に応じた管理作業を学ぶことができます。

また、県農試が開発した「盛土式根圏制御栽培」について、なしとぶどうで実習できるなど、最新の栽培技術を体験することが可能です。

さらに、国際基準である「グローバルGAP」の認証を「日本なし」で取得しており、食品安全・労働安全・環境保全に配慮した生産工程管理についても学ぶことができます。

Pick Up!

なし

ぶどう



なしでは、4本主枝棚仕立て栽培の基本技術を習得します。また、学生自分で考えた卒業論文の研究テーマを設定し、樹の管理や調査など責任を持って行います。



ぶどうでは、「雨よけと露地栽培」「長梢と短梢せん定」「種ありと種なし」など、栽培方法の違いを含めた基本技術の習得を目指します。また、シャインマスカットやクイーンニーナなど注目の品種も学ぶことができます。

先輩たちの声

voice

在校生



園芸経営学科 2年
菅野 瑞紀さん

「大変な作業もみんなでやり遂げた」

私は、高校のインターンシップで地元のワイン生産者のところで経験しぶどうについて深く学びたいと思い農大を選びました。農大の果樹専攻の実習はみんなで一緒にやる作業が多く、特に、スゴく暑かった日に、ぶどうの誘引作業をみんなで耐えてやり遂げたことを、今でも思い出します。卒論のテーマには、根圏制御栽培の巨峰の品質向上対策として、LEDや新梢管理などの試験を行いました。試験区の設置や栽培管理、調査・集計など、将来の就職先でも役立つことがたくさんあると思います。



卒業論文

「豊水で玄米アミノ酸微生物農法の実証」



園芸経営学科 2年
深澤 嘉宣さん

私の家は梨農家で、老木化や異常気象による生育不良や病害虫の多発などの問題が出ています。そこで私は、将来就農したときに農薬や肥料にたよらない環境にやさしい農業を実現したいと考え、「玄米アミノ酸微生物農法」を卒業論文のテーマとして取りあげ、豊水の生育や果実品質が向上しないか、病害虫の発生が減らないか調査しています。試験樹の管理は、剪定から着果管理、玄米アミノ酸や骨粉油かす肥料の試験、収穫・調査など…、全て自分で行うので、将来の就農に向けてもいい経験になっています。

畜産経営学科



畜産の基礎知識や先端技術を習得した、「即戦力」の担い手を目指します。

畜産に関する基礎知識やICTを活用した先端技術を学んでいます。

Pick Up!

酪農

肉用牛

学生は、酪農及び肉用牛専攻に分かれ、講義・専攻実習や毎日の農場管理実習を通して、乳用牛及び肉用牛の基本的な飼養管理（飼料給与・搾乳・衛生管理等）や飼料作物の栽培・調製技術、家畜人工授精師の資格取得など、畜産経営に必要な実践的な技術について、幅広く学んでいます。



平成 30 年度に新設した「ドリーム牛舎」では ICT (情報通信技術) 機器を活用した先端の飼養管理を実践しています。

酪農専攻では、フリーストール牛舎で搾乳牛を飼養、ミルキングパーラーでの搾乳をメインに、「哺乳牛からベテラン牛」まで、アニマルウェルフェアを心がけた管理を学んでいます。

肉用牛専攻では、基礎的な飼養管理技術の習得に加え、ICT 技術による繁殖管理や体重測定データに基づく飼料給与計算等を学んでいます。

先輩たちの声

voice

在校生



畜産経営学科 1年
山本 夏楠さん

「動物が大好き」

私は、動物が好きで農大に入学し、初めて牛について学び始めました。近くで見る牛は動物園で見た牛と異なりとても大きく感じ少し恐怖心を抱きました。しかし、農大は実習が多いため牛と共に過ごす時間がたくさんあり、今では牛を追う時も近づけるようになりました。

また、インターンシップ等にも積極的に参加できる環境にあるため、実際の農家さんの雰囲気や作業方法を知ることができるなど、自分が現場で働いたらどうかをイメージすることができます。それは、将来を考える時にも大きく影響すると考えています。

まだまだ慣れないことも多いですが、これからも頑張っていきたいと思います。



卒業論文



畜産経営学科 2年
小林 司さん

「牛における昼間分娩への誘導試験」

本校では、牛の体温監視による分娩通報システムを導入し、分娩管理の効率化を図っています。しかし、牛の分娩は生物学的に夜間に集中する傾向にあり、スマホ等に分娩発来の通報があった後、特に夜間は担当者が牛舎に到着するまでに時間を要することから、難産時の分娩介助の遅れなどの課題が残っています。

このため、分娩事故の防止と管理担当者の負担軽減を目的として、昼間分娩を誘導する技術について検討を行っています。

通常朝夕 2 回の飼料給与を分娩予定日の 2 週間前から夕方 1 回給与に変えることにより、分娩を促すホルモンを昼間に多く分泌させ、昼間分娩を誘起する試みです。

学生生活 ~Campus Life~

学生自治会長



畜産経営学科 2年
菊池 恒太さん

「学生自ら考え、楽しい学校生活にしよう！」

栃木県農業大学校では学生による自治会が組織されています。毎年10月頃に立会演説会と選挙を行い新たな自治会長等の選出を行っています。

自治会では学校行事であるスポーツ大会や農大祭の運営をみんなでアイデアを出し合いながら楽しく行っています。

今年はコロナウイルスの影響もあり残念ながら農大祭を行うことは出来ませんでした。が、地元地域住民の方も楽しみにいただいているので、来年度はパワーアップして開催していきたいと思っています。



清き一票をお願いします！



来年の農大祭ができますように！



みんなで考えたスポーツ大会！爆笑ハプニング続出！？

寮生会長



園芸経営学科 2年
菅野 瑞紀さん

「一人一人がコロナ対策を徹底し、快適な寮生活を送っています！」

寮生で組織している「寮生会」は、寮生が快適に寮生活をおくれるように運営している組織です。寮生みんなの声を積極的に聞き入れ、よりよい寮にするため日々改善を繰り返しています。

今年はコロナの影響でバーベキュー大会など親睦を深める行事は行えていませんが、寮生1人1人が徹底した感染対策を行い毎日楽しく過ごしています。



女子寮、集まって！はいチーズ！



男子寮、集まれ！解散！



卓球で息抜き！

Message

「仲間と遊び、夢を語り合った場所」

2020年に創立115年を迎えた栃木県農業大学校。恵まれた環境の学び舎に加えて、高軒高ハウス、ドリーム牛舎等々最新の技術を結集した施設が導入されています。さらに来年度からいちご学科の創設が決定し歩み始めます。農業の各分野で、知識、技術、そして実行力のある農業者が育ってくれることを期待しています。

さて、広大な農大の一角に昔の軍事施設、まんたいごう掩体壕があります。在校生の皆さんも日々目にしていることでしょう。私自身学生時代、この掩体壕の中で、上で仲間たちと遊び、そして夢を語り合ったものです。掩体壕は作られてから80年近くの年月、農大の変遷を眺めながら同時に学生たちを見守ってくれていたのだと思えば感慨深いものがあります。

栃木県農業大学校、掩体壕ともに歴史ある存在です。(同窓会長 平出 孝司)



農大の敷地内にある「掩体壕」。戦時中は、ゼロ戦の格納庫に使われたとか。

とちぎ農業未来塾

Uターン、Iターンなどにより、栃木県内で農業を始めたいと考えている方が、円滑に就農できるよう、基礎的な農業経営の知識や作物の栽培技術などを研修します。

「とちぎ農業未来塾」は、新型コロナの影響で研修開始が5月下旬と遅れたものの、就農準備基礎研修と専門研修合わせて78名で元気にスタートしました。各研修とも講義や実習、現地視察等で構成されており、各種作物の栽培や農業経営、農産物販売するための基礎的知識を学んでいます。

週1回のコースである就農準備基礎研修では、夏野菜と秋冬野菜に分けて計13種類の作物を栽培、販売実習等を含め実施しています。また、より実践的な内容を学ぶ就農準備専門研修（いちご、施設野菜、露地野菜）では、各専攻に分かれて今年4月からの就農に向け全員が精力的に研修に励んでいます。



とちぎ農業ビジネススクール

経営の高度化を目指す意欲ある農業者を対象に、経営改革に必要な経営スキルを学びます。

「とちぎ農業ビジネススクール」は、経営の高度化を目指す意欲ある農業者の方を対象としたもので、これまでも地域農業の核となる多くの農業経営者を輩出しています。

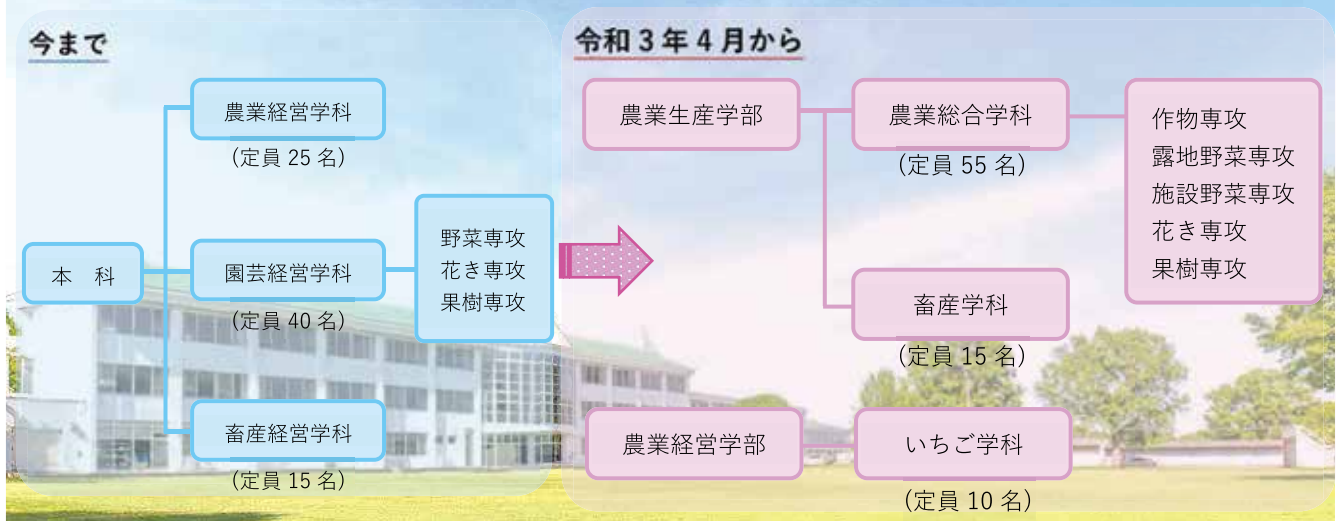
今年は、新型コロナの影響で開始が7月と遅れましたが、県内各地から7名が受講しています。このスクールでは、経営者として必要な経営スキルや意識改革を行うために、セミナー及び受講者同士での討論を通じ自分の目指す経営改革の方向を明確化するとともに、各々が経営の個別課題を整理・分析し、実効性のある5カ年の「経営改革プラン」を策定しています。

今後は、このプランを実践し経営改革に取り組むことで、本県農業をリードする先進的な農業経営者となることが期待されます。



令和3年4月から学科を再編します。

- 日本初「いちご学科」が創設されます！ 「いちご王国・栃木」をけん引する、優れた技術と高い能力を持ち、企業的な農業経営を目指す「いちご経営者」を養成します。
- 本科が「農業総合学科」と「畜産学科」に生まれ変わります！ 実践的教育の観点から高度な専門知識や技術の講義実習を行い、次代の本県農業を担う資質の高い青年を養成します。



(編集後記：県農業大学校が、みなさんの進路の選択肢の一つになればと思います。新型コロナウイルスに気をつけて来年度会いましょう！)